

# スプレーギクの作型別適正栽植密度および栄養生長期間

## 1. 試験のねらい

今後の切り花消費拡大のキーポイントとして期待される家庭用切り花の栽培においてスプレーギクは、その主品目として関心が高い。そこで、周年で同程度の切り花品質の確保を目的とした、作型別栽植密度および栄養生長期間を検討し、家庭用切り花栽培技術確立への参考とする。

## 2. 試験方法

(試験1) 2月定植4月出しの作型：栽植密度67本/m<sup>2</sup>および100本/m<sup>2</sup>の2処理を設定し、栄養生長期間は3週間とした。

(試験2) 6月定植8月出しの作型：栽植密度100本/m<sup>2</sup>、140本/m<sup>2</sup>、200本/m<sup>2</sup>およびベット中央の2条を空けて定植した130本/m<sup>2</sup>の4処理を設定し、栄養生長期間は1週間とした。

### 栽培概要

供試品種は White Weldon (フィデス系、秋ぎくタイプ)。

(試験1) 平成8年2月16日定植、深夜4時間電照による栄養生長期間は3週間とした。以後、自然日長が12時間より短い時期は早朝電照により、明期が12時間以上を確保するように補光を行った。室温は最高25℃、最低18℃を目標として管理した。

(試験2) 平成8年6月16日定植、深夜4時間電照による栄養生長期間は1週間とした。室温は天窗および側窓を開放し自然条件で行った。シェード処理は、午後5時30分～午後8時および午前4時～午前6時30分の間とし、夜間は開放して気温の上昇を防いだ。

分管理プログラムは、表-1のとおり。

## 3. 試験結果および考察

(試験1) 100本/m<sup>2</sup>の栽植密度では、家庭用切り花規格目標である茎長65cm以上、生体重35g以上着色花数8輪以上の条件のうち、生体重が満たされていなかった。茎径は4.0mmとやや細かった。67本/m<sup>2</sup>の栽植密度では茎径4.8mmであり、家庭用切り花規格を十分に満たしていた(表-2)。

(試験2) 100本/m<sup>2</sup>の栽植密度では、前述の家庭用切り花規格と比較してやや着色花数が不足していた。また、頂花の花首長が10cm以上あり品質上問題があった。栽植密度を大きく設定した処理区では、さらに生体重が不足していた。スプレーフォーメーションは全処理区ともCタイプが90%以上であり、頂花の花首長が長いことと考え合わせると、盛夏期の栽培では発らい時に頂花を取り除く処理を含めて、さらに検討する必要がある(表-3)。

## 4. 成果の要約

家庭用切り花規格に適合するスプレーギク栽培において、冬季では栄養生長期間3週間で栽植密度67本/m<sup>2</sup>程度の条件が必要であった。盛夏期では栄養生長期間は1週間でよいが、栽植密度100本/m<sup>2</sup>程度の条件が必要であり、発らい時に頂花を取り除く処理の検討が今後必要である。

(担当者 花き部 鈴木智久)

表一 養水分管理プログラム

定植後	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10週
成分別施肥量	mg/m <sup>2</sup>										
NO <sub>3</sub> -N	0	7	38	38	38	38	0	0	0	0	
NH <sub>4</sub> -N	0	7	38	38	38	38	0	0	0	0	
P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	0	45	215	215	215	215	0	0	0	0	
K <sub>2</sub> O	0	30	150	150	150	150	0	0	0	0	
かん水量 (ℓ/m <sup>2</sup> )											
2月定植4月出し	—	1.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	4.0	2.0	0.6	
6ヶ8ヶ	—	4.0	5.0	0.5	3.2	6.3	3.2	6.3	3.2	1.0	

注) 定植から1週間は手かん水が含まれるので削除した。

表一 2 冬季栽培時の栽植密度の違いによる切り花品質の比較 (試験1)

栽植密度 本/m <sup>2</sup>	定植からの 到花日数	茎長 cm	花首長 cm	茎径 mm	葉数	着色 花数	生体重 g	S.F (%)		
								A	B	C
67	64	75.5	6.0	4.8	32.9	14.0	49.4	43	43	14
100	67	72.3	4.9	4.0	31.8	12.6	34.3	53	40	7

注) スプレーフォーメーション (S. F)

A-頂花を含め側枝5本以上に二次側蕾なしで、頂花と同じ位置に3輪以内。

B-頂花を含め側枝5本以上に二次側蕾なしで、頂花と同じ位置に4輪以内。

または

頂花と同じ位置に3輪以内で、頂花を含め側枝4本に二次側蕾なし。

C-頂花を含め側枝5本以上に二次側蕾なしで、頂花の位置が第2、3花より低い。

表一 3 盛夏栽培時の栽植密度の違いによる切り花品質の比較 (試験2)

栽植密度 m <sup>2</sup> あたり	定植からの 到花日数	茎長 cm	花首長 cm	茎径 mm	葉数	着色 花数	生体重 g	S.F (%)		
								A	B	C
100	72	65.7	10.3	5.0	23.4	7.5	43.4	6	94	
140	72	65.0	10.3	4.9	22.7	6.5	33.8	7	93	
200	72	64.3	9.8	4.8	22.9	6.3	25.0	38	62	
130	72	64.4	10.2	4.7	21.8	7.1	30.6	25	75	

注) 130本/m<sup>2</sup>の処理区は栽培ベット中央の2条を空けて定植した。